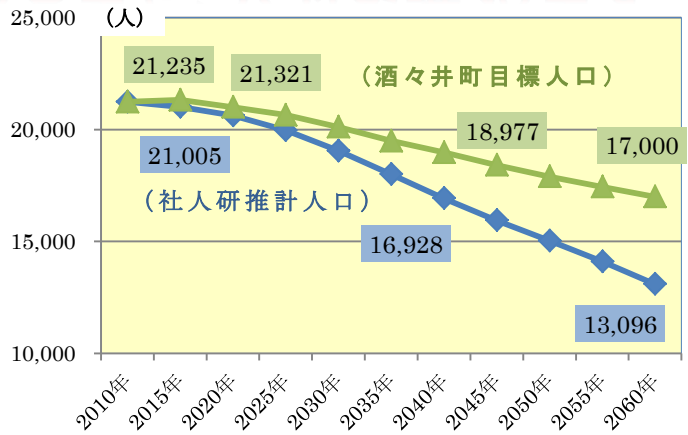


報告1 「酒々井町人口ビジョン」及び「酒々井町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定及びその推進について

100年安心して住めるまちづくりを進めます。

先に増田レポートとして「日本創生会議」で示された社人研（国立社会保障・人口問題研究所）の推計で、当町の人口は、2060年には約13,100人と推計されております。町では、当町の現状を認識し、その課題解決と将来の発展を創造するため、「酒々井町人口ビジョン」及び「酒々井町まち・ひと・しごと創生総合戦略～100年安心して住めるまちづくりプラン～」を本年10月末に策定しました。



町の人口ビジョンにおいては、政策目標として希望出生率を1.80とし、2060年の人口目標を17,000人と設定、その人口目標を達成するために、平成27年度から31年度までの5か年で、次の4つの基本目標により戦略的に施策の展開を図ります。

**基本目標1『地方における安定した雇用を創出する酒々井づくり』**

- 町南東部を中心とした魅力ある雇用の場づくり
- 高品質なコンパクトシティを活かしたまちづくり
- 成田国際空港を活かしたまちづくり

**基本目標2『地方への新しい人の流れをつくる酒々井づくり』**

- 酒の井をシンボルとした酒々井の歴史・里山・里沼を活かした交流支援の拠点づくり
- 世界中から人々が集う酒々井づくり
- 子どもから高齢者まで「いつでも」「どこでも」「誰でも」学び育てるひと・まちづくり

**基本目標3『若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる酒々井づくり』**

- 岩橋保育園を中心とした一貫した子育て支援の拠点づくり
- 安心して産み育てられることのできる酒々井づくり
- “ふるさと酒々井”の郷土愛の醸成づくり

**基本目標4『時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する酒々井づくり』**

- 中心市街地と連携した一体型医療・高齢者生活支援の拠点づくり
- 子どもから高齢者まで誰もが健康で生きがいをもてるまちづくり
- 子どもから高齢者まで誰もが安全・安心に暮らせるまちづくり

今後、第5次酒々井町総合計画後期基本計画を策定してまいります。町民の皆様や議会と町とが「チーム酒々井」として一丸となり、今回の地方創生を契機として、あらゆる方策を展開し、「100年安心して住めるまちづくりプラン」を推進しながら人口減少対策に積極的に取り組み挑戦することで“日本で一番古い町”酒々井を誇りに、全国基礎自治体のトップランナーとして光り輝き続けられるものと確信しております。

## 報告2 酒々井町公共施設等総合管理計画の策定状況について

**今後大幅に増加する公共施設維持更新費の適正化を図るため、管理計画の策定作業を進めています。**

酒々井町では、様々な行政需要に対応するため、昭和40年代から60年代にかけて多くの公共施設等を整備し、行政サービスを提供してきましたが、これらの公共施設等は老朽化してきており、今後それらの維持更新費用が増加することが見込まれています。

また、国立社会保障・人口問題研究所の推計を基に試算した45年後の人口は、現在と比較して約4割減少と予測され、さらに少子高齢化の進行等により税収の減少や扶助費の増大など厳しい財政状況となることを見込まれていることから、固定費ともいえる公共施設の維持更新費をいかにして適正な水準に抑えていくかが喫緊の課題となっています。

また、今後の維持更新に要する費用について、長寿命化による効果を見込まずに建築年度及び標準的な更新単価等をもとに試算した結果、過去の投資的経費の決算額と比較して大幅に増加することが見込まれます。

このため、施設の長寿命化を図りつつ、住民ニーズを踏まえ必要な施設は適



### 計画の基本方針案

- ① 選択と集中により住民の福祉と利便性の維持・向上
- ② 長寿命化によりトータルコストの縮減・平準化
- ③ 付加価値のあるインフラ整備
- ④ 人口減少時代に応じた施設整備
- ⑤ 多目的化・複合化により施設等の総量縮減

正に整備をし、多目的化による減築や統廃合等により施設総量の縮減も考慮し、町民の皆様のご理解と議会の協力を得ながら、酒々井町公共施設等総合管理計画の策定作業を鋭意進めてまいります。

## 報告3 病院建設に伴う協力依頼について

**町民意識調査でも要望の高い病院開設に、町も協力します。**

本年11月26日、富里市中沢で「中沢病院」を運営している「医療法人社団 千葉光徳会」から同病院の移転に伴う新たな病院建設に当たっての協力依頼がありました。

町では、第5次総合計画の策定に当たって平成22年7月に実施した町民意識調査の結果では、充実して欲しい施設の中で「病院」が、39パーセントで、最も高い結果となっています。

こうした町民の意識調査の結果、町内の医療機関の現状を考えますと、町としても、病院開設を歓迎するとともに、出来る範囲で協力したいと考えております。

なお、新病院の概要につきましては、診療科目が、内科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科と、そのほか介護保険事業の通所リハビリテーションを行います。病床数は、療養病床が270床、回復期リハビリテーション病床が41床です。

現在、岩橋保育園周辺で用地確保に向け、地権者と交渉中とのことです。



## 報告4 第3回輝く創年とコミュニティ・フォーラムについて

## 酒々井まちづくり研究所

### メインテーマ『創年が地方を創生する』

# 輝く創年とコミュニティ・フォーラム



平成27年11月8日、創年とまちづくりの事例などを学び、考え、交流の場とするため、酒々井町中央公民館及びプリミエール酒々井を会場として開催されました。

このフォーラムは、酒々井まちづくり研究所のイベントとして平成25年度から開催されており、酒々井まちづくり研究所研究員と行政が「コミュニティ・フォーラム実行委員会」を組織して、フォーラムの計画及び準備を重ね、当日の分科会等を運営するとともに、一部、分科会のコーディネーターも担当しております。

午前中の分科会は、酒々井町中央公民館において、4つのテーマごとに4会場に分かれて開催し計12名の方から発表が行われ、1都4県の県外の方を含め約160名の参加をいただきました。

また、午後からは、プリミエール酒々井を会場とし、オープニングでは、夏休みに子ども青少年おもてなしカレッジに参加した小学生2名と本佐倉城マスコットキャラクター「勝っタネ!くん」が、元気な歓迎のあいさつで参加の皆さんを迎えました。

基調対談では、聖徳大学名誉教授・酒々井まちづくり研究所長の福留強（ふくどめ つよし）氏と俳優の三ツ木清隆（みつぎ きよたか）氏により、創年の位置づけやまちづくりに関する対談が行われました。



続いて、シンポジウムでは、「高齢社会を活性化させる」と題し、コーディネーターに NPO 法人全国生涯学習まちづくり協会副理事長の清水英男（しみず ひでお）氏、パネリストに文部科学省生涯学習政策局政策課長の里見朋香（さとみ ともか）氏、公益社団法人スコーレ家庭教育振興協会会長の永池榮吉（ながいけ えいきち）氏、学校法人緑ヶ丘学院理事長大田順子（おおた じゅんこ）氏、島村トータル・ケア・クリニック医院長の島村善行（しまむら よしゆき）氏を迎え、私もパネリストとして加わり、各氏の仕事に関わる施策や事例のお話、また健康に結びつく提言等がありました。参加者は、約170名でございました。



交流会につきましては、分科会及びシンポジウムの講師の方々への参加をいただき、情報交換・名刺交換が行われ、約110名が参加し、有意義な交流会となりました。

町といたしましても、今後も引き続き住民による酒々井のまちづくりを考える場として、全国のまちづくり関係団体との交流事業等を行い、酒々井の将来に資するよう支援をしてまいりたいと考えております。

※創年：「新たな人生に挑戦し、生涯現役を目指す人々の呼称」とする造語